

# ささやき

編集・発行：特定医療法人 明和会 琵琶湖病院  
聴覚障害者外来スタッフFAX：077-579-5487  
TEL：077-578-2023  
E-Mail：mimi@biwako.or.jp

## ～ 原点に戻って ～

村田 墨子（P2病棟 看護師長）

高校卒業後、高看学校へ進学と同時に琵琶湖病院へ就職しました。昼間は仕事、夕方より学校と、どうにか両立させ、看護師となりました。当初の病院は暗く陰気で、鉄格子で囲われており、若い私にとっては恐い印象でした。しかし、職員の方々にやさしく接していただき、家族のように暖かい病院だったと、今思えば、その頃が懐かしく感じられます。そして、患者さんと職員も親しみのある環境の中で、演芸会、畑仕事、レクレーションと共に行動し、それが治療、看護の一環であったと思います。そんな暖かい環境の中で14年間続けることが出来ました。しかし、私は欲が出て来たのか、看護師として一般の看護も勉強したくなり、退職を希望しました。

そして、昨年24年目にして縁があり、私の原点である琵琶湖病院へと帰って来ました。病院へ帰ってみると、昔とは打って変わって病棟は近代的できれいで気持ち良い空間となっていました。そして精神科患者さんに対する偏見も徐々に緩和され、人間らしく尊重された看護が行き届くようになってきており、スタッフ教育にも力を入れている姿勢が窺えました。

琵琶湖病院では、手話教室を開いているということをうわさで聞いていたので、就職して一番最初にいつしているのか聞きました。以前はサークルや各部署ごとに行っていたようですが、現在はどこも開催されていないとのことで残念でした。しかし、手話通訳士にお願いし、P2病棟で週1回、13時30分から15分間教えてもらうことになりました。

興味深々で第1回目を受けました。テレビのニュースの時間等で手話で説明しているのは知っていましたが、いざ教えてもらうとなかなか指が動くものではなく、ごちちなく指を動かしながら楽しく習っています。はやいもので、もう38回目を終えました。

途中からは、他部署の人も参加して、和気藹々と学習出来ています。しかし、教えてもらっても年のせいか、なかなか覚えられず悲しくもありますが、スタッフと思い出したように使っては、楽しんでいきます。

P2病棟には現在はろうの患者さんがいないので、使う機会がありません。藤田医師と少しでも多く会話出来るようになれば良いと思っています。くり返しくり返し教えてもらいながら今後も手話を勉強していき、単語だけでも自分のものになれば良いと思っています。

私にとって未知のものでしたが、琵琶湖病院に勤務して、手話と出会えたことは良い体験となり、何かの折に役立てられることが出来れば良いと考えています。



中川智子（P 4 病棟 看護師）

琵琶湖病院で働き始めて2年が経過し、3年目に突入した。働く中で、聴覚に障害をもたれた患者さんが入院して来られることが何度かあった。しかし、私は手話を使うことが出来ず、意思疎通の方法は主に、筆談・口話・ジェスチャーであり、時間がかかっていた。また、口話やジェスチャーでは、なかなか思いが伝わらず、「コミュニケーションをとることが難しい」と思い込み、少し避け気味なところがあったのかもしれない。患者さんも、やはり手話の出来る職員と話すことが多く、手話で話されている時には、笑顔が多くみられていた。そんな中、患者さんに関わり、分からないときには直接手話を教えてもらいながら、少しずつ手話を覚えることができ、患者さんから話しかけてもらえることも増えていった。そして何より、話す時に患者さんの笑顔が増えたことが嬉しかった。

こうした関わりがあつてから、手話の学習会の時も「より楽しく、知りたい」という意欲が大きくなった。患者さんに関わり私が学んだことは、「知らない・分からないから」と関わりを避けるのではなく、患者さんとの関わりの中で、学んでいくことも出来るということである。

このことに気付くことが出来たことをとても嬉しく思う。これからは、もっと積極的に関わっていきたい。

・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・☆・・・

### 最近のトピックス

- ☆ 23年11月19・20日、第15回全国聴覚障害者福祉研究集会在京都市で開催され、医師の藤田、看護師の斉藤、鍋島が参加しました。
- ☆ 23年12月11日、聴覚障害者の精神保健福祉を考える講演とシンポジウムが東京で開かれ、藤田が基調講演などを行いました。
- ☆ 24年2月9日、大阪での精神障害を併せ持つ聴覚障害者の事例検討会で、心理士の古賀が「精神障害を併せ持つ聴覚障害者への相談・支援のポイントと実践報告」の講義を行いました。
- ☆ 4月28日、三重県桑名市での全難聴東海ブロック・全要研中部ブロック2012年度合同研修会で「聴覚障害者外来の取り組みから～知って欲しい難聴者・中途失聴者の心の悩み～」の講演を、藤田が行いました。

## ～わんぽいんと手話～

<ゴールデンウィーク>



両手の親指と人差し指で、まず「G」の形を作り、次に「W」の形を作る。

〔編集後記〕

新年度が始まり、生活スタイルが変わり、緊張や悩みをかかえている方もおられると思います。

一人で悩まず、周囲の方に相談しましょう!!